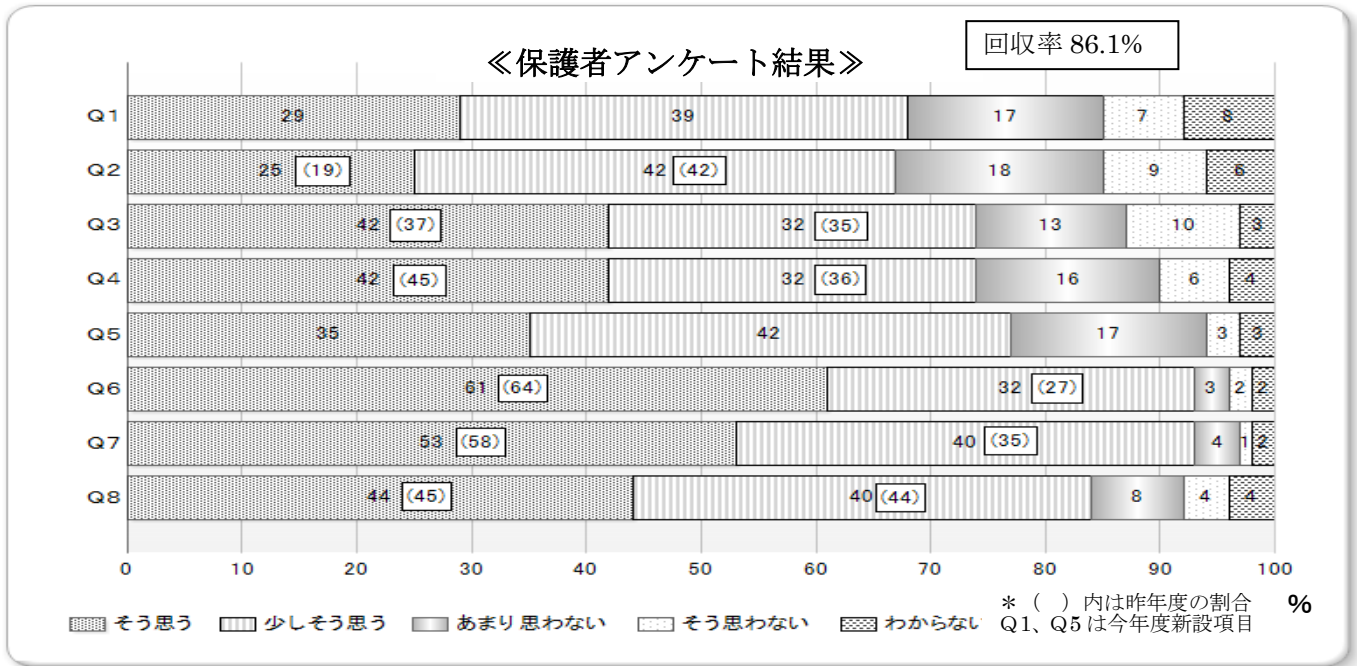




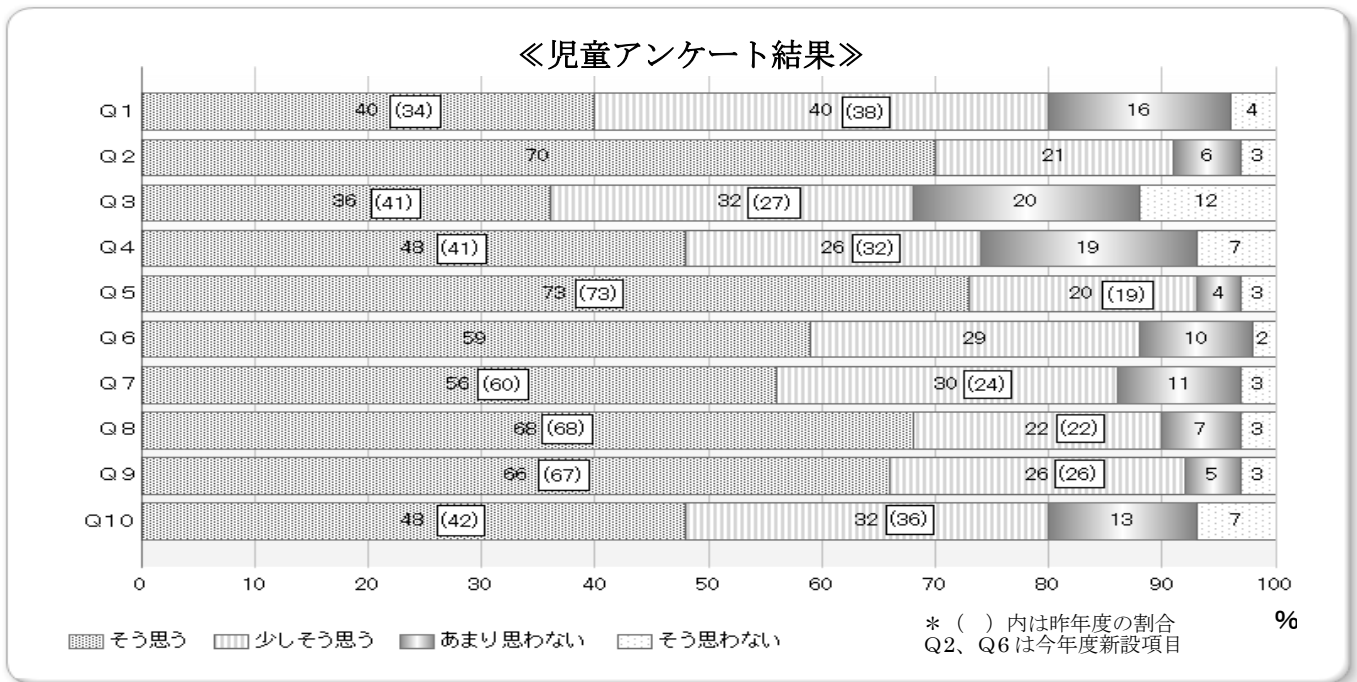
日頃より、本校の教育活動にご理解をいただきまして、誠にありがとうございます。また、学校評価アンケートにもご協力いただきまして、心よりお礼を申し上げます。

集計がまとまりましたので、お知らせいたします。この結果を教育活動改善のための貴重な資料とさせていただきます。今後ともよろしくお願いたします。

平成30年度 学校評価アンケート



- Q1 子供は、気付いたことや自分の考えを書いたり、発表したりしている。
- Q2 子供は、文章を書く力が身に付いてきた。
- Q3 子供は、読書に親しんでいる。
- Q4 子供は、外で元気に遊んだり、すすんで運動したりしている。
- Q5 子供は、元気に返事やあいさつをしている。
- Q6 子供は、楽しく学校に通っている。
- Q7 子供は、友達と仲よく生活している。
- Q8 学校は、HPやメール、学校だより、学年・学級だよりなどを通して学校の様子を伝えている。



- Q 1 自分の考えを発表している。
- Q 2 生活科、総合的な学習の時間が好き。
- Q 3 文章を書くことが好き。
- Q 4 すすんで本を読んでいる。
- Q 5 体育の授業で一生懸命運動している。
- Q 6 元気よく返事やあいさつをしている。
- Q 7 学級会の時間が楽しい。
- Q 8 学校は楽しい。
- Q 9 友達と仲よく助け合おうとしている。
- Q 10 自分には良いところがあると思う。

《学校経営計画教職員自己評価》

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準							
				努力指標	評価指標	成果指標					
確かな学力の向上	基礎・基本を大切に、児童が主体的に学ぶ授業を行い、思考力・判断力・表現力を身に付けさせた児童を育成する。	問題解決的な学習を充実させ、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。	生活科・総合的な学習の時間の指導の充実を図る。	生活科・総合的な学習の時間の授業改善を行う(3つ)	1. 8	4 実行したことや考えたことなど工夫して実践している児童が30%以上	3. 4				
				生活科・総合的な学習の時間の指導改善を行う(3つ)	2. 6	3 実行したことや考えたことなど工夫して実践している児童が20%以上	3. 4				
				生活科・総合的な学習の時間の指導改善ポイントを明確にする		2 実行したことや考えたことなど工夫して実践している児童が10%以上	3. 6				
				生活科・総合的な学習の時間の指導について学ぶ		1 実行したことや考えたことなど工夫して実践している児童が1%未満					
				調べよがった深い理解感、満足感をもたせる工夫をする	3. 0	4 専ら能力の観点で評定Aの児童が30%以上					
				新編自身が書いてみて書き方の指導の平正さを考える	3. 1	3 専ら能力の観点で評定Aの児童が20%以上	2. 9				
				書くことの「種」を履き行ける指導を工夫する		2 専ら能力の観点で評定Aの児童が10%以上	3. 2				
				書くことの指差しをなくすための運動を行う		1 専ら能力の観点で評定Aの児童が10%未満					
				健康な生活	体力の向上、健康の維持増進、日常の指導の徹底を図り、児童の活力を引き出す	読書活動や読書会、読書習慣を確立する。	読書活動や読書会、読書習慣を確立する。	毎月1回は学校図書館を活用する機会を行う	3. 3	4 学年目標を達成し、読書回数を4冊以上読んだ児童が30%以上	
								学年の読書回数を計るための指導を行う	3. 3	3 学年目標を達成し、読書回数を4冊以上読んだ児童が20%以上	1. 4
学年目標(冊、ページ数)を達成するための指導を行う		2 学年目標を達成し、読書回数を4冊以上読んだ児童が10%以上	2. 2								
読書記録を確立し、一人一人の状況を把握し指導に活かす		1 学年目標を達成し、読書回数を4冊以上読んだ児童が40%未満									
種もが楽しみながら運動できるような工夫をする	2. 7	4 体育の経験の観点で評定Aの児童が30%以上									
自分の課題にあった練習方法や練習の場を確保する	3. 4	3 体育の経験の観点で評定Aの児童が20%以上	3. 1								
非公式運動を年間約1時間設定し、指導の充実を図る		2 体育の経験の観点で評定Aの児童が10%以上	3. 2								
体育の授業における運動時間確保のための工夫をする		1 体育の経験の観点で評定Aの児童が10%未満									
運動の指導と評価を連携し改善を図る(90%以上)	2. 9	4 4観点がおおむね達成できた児童が90%以上									
運動の指導と評価を連携し改善を図る(70%以上)	3. 4	3 4観点がおおむね達成できた児童が70%以上	2. 4								
運動の指導と評価を連携し改善を図る(50%以上)		2 4観点がおおむね達成できた児童が50%以上	2. 9								
運動の指導と評価を連携し改善を図る(50%未満)		1 4観点がおおむね達成できた児童が50%未満									
豊かな心の育成	自他の生命を尊重し、互いに認め合える豊かな心を育成する	特別支援学級との交流を促進し、思いやりを育む。	特別支援学級との交流を促進し、思いやりを育む。	学級活動を主体的に実施し、指導と評価を連携し(90%以上)	2. 8	4 学級での話し合い、発表などに積極的に参加する児童が90%以上					
				学級活動を主体的に実施し、指導と評価を連携し(70%以上)	3. 0	3 学級での話し合い、発表などに積極的に参加する児童が70%以上	2. 9				
				学級活動を主体的に実施し、指導と評価を連携し(50%以上)		2 学級での話し合い、発表などに積極的に参加する児童が50%以上	3. 3				
				学級活動を主体的に実施し、指導と評価を連携し(50%未満)		1 学級での話し合い、発表などに積極的に参加する児童が50%未満					
				交流のねらいを達成するための工夫を行う(5つ以上)	1. 6	4 わくわく学級の児童と関わりがもたら児童が60%以上					
				交流のねらいを達成するための工夫を行う(4つ以上)	2. 8	3 わくわく学級の児童と関わりがもたら児童が40%以上	2. 3				
				交流のねらいを達成するための工夫を行う(2つ以上)		2 わくわく学級の児童と関わりがもたら児童が20%以上	3. 8				
				交流のねらいを達成するための工夫を行う(1つ以下)		1 わくわく学級の児童と関わりがもたら児童が20%未満					
				開かれた地域	家庭、地域に信頼される、開かれた学校づくりを推進する	安全、安心な教育環境を醸成する	学級だよりで学級の児童の様子を伝える	年間2号以上発行する	2. 7	4	
								年間2号以上発行する	2. 9	3	
年間1号以上発行する		2									
出せなかった		1									

*上段：中間評価 下段：年間評価

《保護者、児童アンケート結果・教職員自己評価に関する考察》

- * 「児童が主体的に考えたり発表したりする授業の実現」に関しては、保護者からは「そう思う」「少しそう思う」を合わせた肯定的評価(以下、肯定的評価)は68%となりました。一方、児童の自己評価では肯定的評価は80%で、昨年度より8%アップしました。今後さらに、児童が主体的に取り組んでいくことができるよう授業改善に努めてまいります。
- * 「生活科、総合的な学習の時間への取り組み」に関しては、91%の児童が肯定的に評価していることが分かりました。各学年での取り組みが、児童への高評価に繋がったものと考えられます。今後さらに授業改善に努めていきます。
- * 「児童の書く力の育成」に関しては、保護者からの肯定的評価は67%と昨年度より6%アップしました。また、児童の「文章を書くことが好き」に対する肯定的評価は68%となり、トータルとしては昨年度と変わりませんでした。国語の「書くこと」の領域で校内研究に取り組んできた成果を生かし、今後も書くことへの指導の改善を図ってまいります。
- * 「読書への取り組み」に関しては、保護者、児童ともに肯定的評価は70%余りですが「そう思う」の割合がアップしています。読む力は、様々な学習の中での基本の力となるものです。そのために、様々な本に興味をもつ機会を与えていきたいと考えています。今後も読書指導を充実させるとともに、ご家庭にもご協力をいただき、すすんで読書に取り組む児童を育てていきたいと考えています。
- * 「外遊び、運動への取り組み」に関しては、保護者からの肯定的評価は74%と昨年より7%下がっています。一方、児童の体育の授業への取り組みについては90%を超える児童が肯定的に回答しています。新体力テストの結果を見ると、児童の運動能力と体力の多くが国や都の平均を下回っています。引き続き体育の授業改善や中休みや昼休みでの外遊びの励行を行ってまいります。ご家庭でも運動や外遊びに親しむ環境作りにぜひご協力ください。
- * 「元気よく返事やあいさつをしている」に関しては、77%の保護者、88%の児童が肯定的な評価をしています。学校では、よい挨拶の具体的な姿として「①自分から②顔を見て③元気な声で④笑顔で」を示し、

指導しています。ご家庭でも挨拶や返事、言葉遣いなど社会へ出ても通用するマナーが身につくようご指導をよろしくお願いいたします。

- * 「子どもは楽しく学校に通っている」に関しては、90%を超える保護者および児童の肯定的な評価が見られます。今後も、いじめのない学校、困ったことはすぐに相談できる学校を目指し、どの児童も学校が楽しいと思えるような学級、学校作りを行ってまいります。
- * 「子どもは友達と仲良く生活している」に関しては、概ね良好ですが、今後も学校がどの児童にとっても安心して居られる場になるよう全教職員が一人一人の児童に目を向け、気掛かりなことがあれば共通理解を図って対応してまいります。児童の変化や心配なことがありましたら、担任や学校にぜひご相談ください。
- * 「学校はホームページやメール、便りなどで学校の様子を伝えている」に関しては、84%の保護者から肯定的な評価を得ています。ホームページでは、学校行事や学習の様子など伝えています。中でも移動教室については児童の様子をその日のうちに載せ、多くの方にご覧いただいています。また、天候による授業開始時刻の変更や学級閉鎖の連絡は、お便りに加えメールでの配信も行ってきました。学級だよりには、学年だよりでお伝えし切れない学級での児童の様子をお知らせすることができます。しかし、学年が上がるほど学級だよりを作成する時間がなかなかとれないという実態があります。無理のない範囲で学級だよりを発行できるように取り組んでまいります。
- * 「自分には良いところがあると思う」に関しては、20%の児童が否定的に回答しています。失敗体験が多くなると自己肯定感が低くなります。「減点式でなく加点式で褒める。」「出来るようにして褒める。」「当たり前のことでもできていたら褒める。」等、成功体験を増やしていきたいと思えます。

《保護者の皆さまからのご意見》

1. 学習について

- ・文章を書くことに対して、抵抗感はなくなったが、書く力が身についたとは思えない。これからも書く機会を多く取り入れてほしい。
- ・グループでディスカッションする等、多くの子供が主体的に考え、意見を表明する時間であってほしい。
- ・自分の考えを人前で恥ずかしく言える子になってほしい。
- ・宿題の量が多い／少ないと感じる。

【学校より】

- ・昨年度から本校では、国語の「書く力」の指導に重点を置いた研究に取り組んできました。これまでの校内研究での積み重ねをしっかりと活かし、改善を図っていきます。
- ・新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の視点からこれからも授業改善を図っていきます。
- ・宿題の量・内容については、各学年で相談・判断して出しています。子供たちの実態に合わせ、内容を検討・調整していきます。

2. 読書活動について

- ・本を読んでもらうのは好きだが、自分で読もうとしないので、今後も学校全体で読書に力を入れてほしい。
- ・本を読むことが好きなので、石西小の本の紹介や先生のおすすめはいつも楽しみにしている。今後も続けてほしい。
- ・読書に力を入れていることが素晴らしい。これからも続けてほしい。
- ・読書マラソンで読むことの楽しさを知り、自分でもいろいろと本を借りて読むようになったと感じる。

【学校より】

- ・読書への取り組みが多くの子供たちの支持を得ていることが分かりました。今後も、子供たちが本に慣れ親しむことが出来るようご家庭の協力も得ながら取り組んでまいります。

3. 運動・体力について

- ・運動量は少ないと感じる。持久走やボール投げなど、定期的に体を動かし、タイムや飛距離など子供自身が成長や努力を感じ取れる機会を増やしてほしい。

【学校より】

- ・学校では、中休み、昼休みには外遊びを推奨しています。また、体育の授業では、サーキットトレーニングを行って、鉄棒や登り棒での運動やバトンスローでの投力運動の機会を増やす取り組みをしています。体力向上のためには、普段の生活で体を動かすことがなにより大切です。ぜひ、ご家庭でも体を動かすことをお勧めください。そしてお子様と一緒に外遊びなどもご協力ください。

4. 生活について

○思いやり

- ・子供自身で考え、本当の友達を見つけられる力を育てていけたらと思う。相手を思いやり、相手の立場で考えることのできる人間力について家庭でも話していきたい。
- ・高学年と低学年の子供たちの交流が良い形で行われていると感じる。他者を思いやる気持ちが育っている。先生の指導が大きい。先生の姿を通じて子供たちも成長する。
- ・毎日楽しく学校に通っている。多少のもめごとはあるようだが、自分たちで考えて友達と接しているようだ。
- ・先生は子供の様子をよく見て、自主性も伸ばしてもらっている。厳しすぎず、伸び伸びと寛容な対応のおかげで楽しく学校に通えている。失敗は必要以上に注意しなくても反省ができているようだ。友達とけんかすることもあるが、翌日には仲直りしていて、後を引くことはなくやっているようで良い。

○あいさつ

- ・あいさつ運動に力を入れていることがすばらしいと思う。これからも続けて欲しい。
- ・登下校時は子供たちの大きな声での挨拶が返ってこない。挨拶は大人からされるものと感じているのか、自らしてきてくれる子は皆無である。また子供たち同士で挨拶を交わし合う姿も見ない。

【学校より】

- ・石西小では、シャクニーシーという縦割り班活動があり、全学年で遊ぶ児童集会もあります。全校で関わることもあり、仲良く生活しています。学校生活の中では、友達とトラブルもいろいろありますが、担任を始め全教職員でいじめ防止対策方針のもと早期対応に取り組んでいます。
- ・学校ではすすんで挨拶ができるよう指導しています。来校者の方々から、子供たちの挨拶のことで褒めていただくことも多くあります。ご家庭、地域とも連携して今後も取り組んでいきます。

5. 開かれた学校について

○学校行事

- ・学校行事が平日に多く、参加したくてもできないので残念。

○学校だより、学年・学級だより

- ・学級だよりをこまめに配信していただけるのはありがたい。
- ・学級だよりでは、授業で取り組んでいることだけでなく、休み時間の様子もわかり楽しく読んでいる。
- ・クラスの様子を知りたい。(土日仕事で学校に行けない)

○学校ホームページ、メール配信

- ・メールはお便りより速く、正確な情報が届くのでよい。
- ・初めての子供や低学年児童の保護者には、学校の様子や行事の情報が伝わりにくいので、ホームページ等で知らせて欲しい。

【学校より】

- ・各学期に1回ずつ、年間3回行っている学校公開日は平日に設定しています。そのほかに年間8回行っている第2土曜授業も参観していただけます。縦割り班活動の1つであるシャクニシランドは土曜授業日に実施しています。ぜひご来校ください。
- ・昨年度から引き続き、学級だよりで子どもの様子をご家庭にお知らせしようと取り組んできました。しかし、高学年などは、学級だよりを作成する時間がなかなかとれません。無理のない範囲で発行できるよう今後も努めてまいります。
- ・今年度は学校だよりの内容を見直し、児童の活動の様子を写真と共に伝えたり、学年毎に『児童全員の一言』を載せたりしてきました。来年度も引き続き分かりやすい紙面を目指して学校だよりを作成していきます。
- ・学校ホームページには、校内での学習活動や行事の様子などをアップしています。今後も学校ホームページの充実に努めてまいります。

6. その他

- ・学校行事の写真販売の掲示・申し込み期間を知らせて欲しい。
- ・複数の友達と一緒に過ごすのは、あまり得意ではないようだ。スクールカウンセラーの先生をすごく信頼しているようだ。
- ・近隣では「ねりっ子」クラブを行っている。ひろばや校庭開放もよいが、石西小でも取り入れて欲しい。

【学校より】

- ・写真販売の掲示・申し込み期間については、学年だよりや学校だよりに掲載するようにしていきます。
- ・スクールカウンセラーや心のふれあい相談員の在室日時については、学校だよりに毎月掲載していますので、ご活用ください。また、専用電話番号は(080-2012-1564)です。お気軽にご利用ください。
- ・ねりっ子クラブについては、練馬区として概ね10年かけて全校(65校)に導入する予定です。30年度までに13校に導入されました。本校への導入については、区の方針のもとに決定します。

1 自己評価結果

(1) 概要

確かな学力の向上

基礎・基本を大切にし、児童が主体的に学ぶ授業を行い、思考力・判断力・表現力を身につけた児童を育成する

- ・問題解決的な学習を充実させ、思考力・判断力、表現力を身に付けさせる
 - ・生活科・総合的な学習の時間の指導の充実を図る
 - 事前学習などで興味関心があることを取り上げ、児童が主体的に学ぶ姿が見られた。
 - 地域の方や栄養士さんに関わってもらい、学習を進めていくことができよかった。
 - 地域の協力、学年の交流など充実していた。
 - どの取り組みも導入時に必要感をもたせ、主体的対話的に活動する児童の姿が見られた。
 - 児童の主体的な活動をもっと引き出したかった。
- ・国語「書くこと」の領域で、身に付けさせる資質・能力を育成する
 - ・校内研究を通して、身に付けさせる資質・能力を明確にし、授業改善を図る
 - 「書く」ということに対する抵抗感はなくなった。文章量も多くなり、短時間で書くことができるようになった。
 - 書きたいことや相手意識があると、「書く」ことに前向きに取り組む姿が見られた。
 - モデル文・構成表・付箋・マッピングなど、文章を書かせるための手だてが明らかになった。
 - 書くことについて、以前に比べ上達したが、個人差が大きい。
- ・読書活動を推進し、読書習慣を確立する
 - ・読書記録、読書量の目標、課題図書など、読書習慣を確立する取り組みを行う
 - 毎週1回図書室を利用し、図書室での約束を守ることの大切さや読書の楽しさを感じさせることができた。
 - 読書量や読書の質に大きな差ができた。

健康な生活

体力の向上、健康の維持増進、日常の指導の徹底を図り、児童の活力を引き出す

- ・体育の指導を充実させ、児童の運動能力、体力向上を図る。
 - ・体育まるわかりハンドブックを活用し、体育の指導の充実を図る。
 - 体育まるわかりハンドブックを活用し、運動量を増やすことができた。体幹トレーニングを意識して取り入れたことによって様々な体の動かし方を経験した。
 - まるわかりハンドブックを各クラスに配布してもらったことにより活用の頻度が増え、体育指導の充実につながったと感じた。初めて指導する学年でも、見通しがもて不安が軽減できた。
 - 新体力テストの結果は、毎年、国や都に比べて平均以下のものが多い。
- ・全校で日常の指導を徹底し、児童の活力を引き出す。
 - ・返事、挨拶、授業中の挙手の仕方、発言時の声の大きさの指導を共通理解して指導する
 - 挨拶・返事は心がけていて、できていると思う。
 - 呼名の際、返事をするように指導は行っているが、なかなか定着しない児童もいた。
 - 担任の授業以外での定着はできているか分からない。
 - 学級によって定着に差がある。

豊かな心の育成

自他の生命を尊重し、互いに認め合える豊かな心を育成する

- ・学級活動の時間を充実させ、望ましい人間関係を形成し、自主的、実践的態度を育てる
 - ・学級活動を継続的に行い、児童が自主的、実践的に活動する時間を確保する
 - 継続的に行った結果、児童が主体的に行動できるようになった。学級会を開かなくても自分たちで話し合う姿が見られるようになった。

学級活動を通してお互いを理解したり、相手の意見を聞いたり尊重したりすることが少しずつできてきた。

学級会を行い、議題について、みんなで話し合っ解決しようとする意欲が高まった。

学級会の進め方を理解し、徐々に自分の意見を言える児童が増えてきた。

自己主張が強くなり、話し合いで折り合わず、険悪な雰囲気になってしまうことがある。

・特別支援学級との交流を通して、思いやりの気持ちを育てると共に、障害のある児童に対する理解を深める

・交流の年間計画に基づき、ねらいを達成するための手立てを工夫する

校外学習や行事、通常の授業でも交流を図ることができた。今後も継続して交流をしていく。

めあて意識をもって5年生との交流学习を進めることができた。

入学式準備から、移動教室、運動会と共に活動する中で、自然にかかわりができている。

開かれた学校

家庭、地域に信頼される、開かれた学校づくりを推進する

・学級だよりでがっきゅの児童の様子を伝える

月便りや週便りを活用して、子供達の学習や生活の様子を伝えた。

継続的に発行することができた。発行することで、児童理解を深めたり、保護者への情報発信となったりした。

学級だよりで児童の様子を伝えてきた。

あっという間に、次の学年だよりを書く時期になる。学級だよりを出す余裕がない。

(2) 根拠となる資料

(教職員評価)

平成30年度 学校経営計画(年間自己評価)							
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準			
				努力指標	成果指標		
確かな学力の向上	基礎・基本を大切に、児童が主体的に学ぶ授業を行い、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる児童を育成する	問題解決的な学習を充実させ、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。	生活科・総合的な学習の時間の指導の充実を図る	生活科・総合的な学習の時間の授業改善を行う(3つ以上)	1.8	4 気付いたことや考えたことなど工夫して表現している児童が30%以上	3.4
				生活科・総合的な学習の時間の指導改善を行う(2つ以上)	2.5	3 気付いたことや考えたことなど工夫して表現している児童が20%以上	3.6
				生活科・総合的な学習の時間の指導改善ポイントを明らかにする		2 気付いたことや考えたことなど工夫して表現している児童が10%以上	
				生活科・総合的な学習の時間の指導について学ぶ		1 気付いたことや考えたことなど工夫して表現している児童が10%未満	
		国語「書くこと」の領域で、身に付けさせる資質・能力を育成する。	校内研究を通して、身に付けさせる資質・能力を明確にし、授業改善を図る	書いてよかったという達成感、満足感をもたせる工夫をする	3.0	4 書く能力の観点で評定Aの児童が30%以上	2.9
				教師自身が書いてみて書き方の指導の手立てを考える	3.1	3 書く能力の観点で評定Aの児童が20%以上	3.3
		読書活動を推進し、読書習慣を確立する。	読書記録、読書量の目標、課題図書など、読書習慣を確立する取り組みを行う	書くことの種類を見付ける指導を工夫する		2 書く能力の観点で評定Aの児童が10%以上	
				書くことの抵抗感をなくするための活動を行う		1 書く能力の観点で評定Aの児童が10%未満	
				毎月1回は学校図書館を活用する授業を行う	3.3	4 学年目標を達成し、課題図書を4冊以上読んだ児童が80%以上	1.4
				学年の課題図書を読むための指導を行う	3.3	3 学年目標を達成し、課題図書を4冊以上読んだ児童が60%以上	2.2
健康な生活	体力の向上、健康の維持増進、日常の指導の徹底を図り、児童の活力を引き出す	体育の指導を充実させ、児童の運動能力、体力向上を図る。	体育まるわかりハンドブックを活用し、体育の指導の充実を図る	誰もが楽しみながら運動できるような工夫をする	2.7	4 体育の技能の観点で評定Aの児童が30%以上	3.1
				自分の課題にあった練習方法や練習の場を選べるようにする	3.4	3 体育の技能の観点で評定Aの児童が20%以上	3.3
				体づくり運動を年間約15時間設定し、指導の充実を図る		2 体育の技能の観点で評定Aの児童が10%以上	
				体育の授業における運動時間確保のための工夫をする		1 体育の技能の観点で評定Aの児童が10%未満	
		全校で日常の指導を徹底し、児童の活力を引き出す。	返事、挨拶、授業中の举手の仕方、発表時の声の大きさの指導を共通理解して指導する	4 4観点の指導と評価を徹底し改善を図る(90%以上)	2.9	4 4観点がおおむね達成できた児童が90%以上	2.4
				3 4観点の指導と評価を徹底し改善を図る(70%以上)	3.4	3 4観点がおおむね達成できた児童が70%以上	2.9
				2 4観点の指導と評価を徹底し改善を図る(50%以上)		2 4観点がおおむね達成できた児童が50%以上	
				1 4観点の指導と評価を徹底し改善を図る(50%未満)		1 4観点がおおむね達成できた児童が50%未満	
				4 学級活動を継続的に実施し、指導と評価を繰り返す(90%以上)	2.8	4 学級での話し合い、係、集会などに協力的に参加する児童が90%以上	2.9
				3 学級活動を継続的に実施し、指導と評価を繰り返す(70%以上)	3.0	3 学級での話し合い、係、集会などに協力的に参加する児童が70%以上	3.3
豊かな心の育成	自他の生命を尊重し、互いに認め合える豊かな心を育成する	学級活動の時間を充実させ望ましい人間関係を形成し、自主的、実践的に活動する時間を確保する	2 学級活動を継続的に実施し、指導と評価を繰り返す(50%以上)	1 学級活動を継続的に実施し、指導と評価を繰り返す(50%未満)		1 学級での話し合い、係、集会などに協力的に参加する児童が50%未満	
				4 交流のねらいを達成するための工夫を行う(5つ以上)	1.6	4 わくわく学級の児童と関わりがもてた児童が60%以上	2.3
		特別支援学級との交流を通して、思いやりの気持ちを育てると共に、障害のある児童に対する理解を深める	交流の年間計画に基づき、ねらいを達成するための手立てを工夫する	3 交流のねらいを達成するための工夫を行う(4つ以上)	2.8	3 わくわく学級の児童と関わりがもてた児童が40%以上	3.8
				2 交流のねらいを達成するための工夫を行う(2つ以上)		2 わくわく学級の児童と関わりがもてた児童が20%以上	
				1 交流のねらいを達成するための工夫を行う(1つ以下)		1 わくわく学級の児童と関わりがもてた児童が20%未満	
				4 年間3号以上発行する	2.7	4	
開かれた学校	家庭、地域に信頼される、開かれた学校づくりを推進する	安全、安心な教育環境を整える	学級だよりで学級の児童の様子を伝える	3 年間2号以上発行する	2.9	3	
				2 年間1号以上発行する		2	
				1 出せなかった		1	

* 上段：中間評価 下段：年間評価

2 学校関係者評価

(1) 総括 成果

- ・総合的な学習の時間は教科書がない難しさがあるが、決められたものを与えられて活動するのではなく、興味を持ったものから取り組んでおり、体験と協働で学ぶなど良い取り組みをしている。
- ・書くことについて相手に伝える目的意識を持ち取り組む活動を継続しており良い。
- ・本は年齢によって受け取る感想が変化するので何回読んでも良い。
- ・「この本いいなの本」の取り組みを今後も継続してほしい。
- ・児童が主体になり話し合い活動することはとても良い。
- ・特別支援学級の子供たちと関わる中で自然と助け合い、一緒に活動ができています。
- ・いろいろな学年・学級と一緒に学ぶ機会があり、互いに成長できる機会である。
- ・学級だよりには良さがある。子供の様子などを直接知ることができる。

課題

- ・話し合いが決裂したときにいじめにつながらないように留意してほしい。
- ・調べ学習では、自分で調べたいものを探す力を付けてほしい。図書室でどのようにして調べるか学ぶ機会を設けると良い。
- ・骨折などのけがが以前より増えている。骨密度を高めるための負荷が大切である。日常的な努力が必要である。
- ・体力テストの結果個票を活用するとよい。平均まで実際に取り組むなど、運動の意識付けを行うとよい。
- ・教師は児童に指導しているが、挨拶のない教師もいる。教師自身が児童の手本となるように努力してほしい。教師自身の意識を変える必要がある。
- ・学級だよりはクラスの様子が見えるので続けてほしい。文章は少なくとも写真掲載を多くしてほしい。(後ろ姿・シルエットでも良い)

改善策

- ・学級活動による話し合いの進め方や内容については、児童が主体となって進めるが、必要な場合には互いに良い関係が気付くことができる話し合いとなるよう教諭が助言する。
- ・図書を使った調べ学習の機会を増やしていく。
- ・31年度は校内研究教科を体育に設定し体力向上を目指す。
- ・挨拶では、教員の意識を変え、児童が自然と挨拶する環境を整える。
- ・学級だよりの保護者の意見を反映し、各学年が児童の様子を発信することを継続していく。

(2) 根拠となる資料

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	自己評価(成果と課題)	改善策	学校関係者評価
確かな学力の向上	基礎・基本を大切に、児童が主体的に学ぶ授業を行い、思考力・判断力・表現力を身につけた児童を育成する	問題解決的な学習を充実させ、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。	生活科・総合的な学習の時間の指導の充実を図る	事前学習などで興味関心があることを取り上げると、児童が主体的に学ぶ姿が見られた。 3段階の学習の流れをつくり、それぞれの段階で「調べる・考える・深める」取り組みができた。よい学びとなったと思う。 地域の協力・学年の交流など充実していたと思う。 どの取り組みも導入時に必要感をもたせ、主体的対話的に活動する児童の姿が見られた。(1年生からアサガオの種をもらう 大事に育てる・観察する リース作りをして思い出を形に残すなど) 地域の空襲・学校の被害・模擬原爆へと一連の流れで学習に取り組むことができた。 地域の方からお話を聞くことができた。 児童の主体的な活動をもっと引き出したかった。 地域の方や栄養士さんに関わってもらい、学習を進めていくことができたのは、よかった。 児童が練馬大根のことをすでに調べているには、資料が難し、主体的な活動になりづらかった。	・今年度、実践した資料を残し、次年度に生かしていく。(ご協力いただいた関係機関、人材情報、指導計画、ワークシートなど) ・次年度も研修を積んでいく。	・相手意識を持ち発信していくことは大切である。 ・教科書がない難しさがあるが決められた物を与えられて活動するのではなく、興味を持ったものから取り組んでおり、体験と協働で学ぶなど良い取り組みをしている。
		国語「書くこと」の領域で、身に付けさせる資質・能力を育成する。	校内研究を通じて、身に付けさせる資質・能力を明確にし、授業改善を図る。	書くことについての指導、手立てが分かった。 書くことについて、以前に比べ上達したが、個人差が大きい。 「書く」ということに対する抵抗感はなくなった。文章量も多くなり、短時間で書くことができるようになった。 書きたいことや相手意識があると、「書く」ことに前向きに取り組む姿が見られた。 モデル文・構成表・付箋・マッピングなど、文章を書かせるための手立てを手に入れたことができた。 書く能力に個人差はあるが、書くことの指導に取り組むことで、各学習の学習感想をすらすら書くことができるようになった。	・2年間の研究で明らかになった書く力を高めるためのポイントを整理し、次年度以降の指導に活かしていく。(A4版1枚にまとめ、来年度全員に配布し、いつでも見られるようにする。)	・書くことについて相手に伝える目的意識を持ち取り組むことを今後も継続してほしい。
		読書活動を推進し、読書習慣を確立する	読書記録、読書量の目標、課題図書など、読書習慣を確立する取り組みを行う。	週一回図書室を利用、昌子先生の読み聞かせ、授業内で本の紹介するなど積み重ねると、読書の楽しさに気付くようになった。 月に一度以上は図書室の利用ができた。ただし、現状を考えると、これ以上の確保はなかなか難しい。 低学年のうち、昌子先生の読み聞かせやブックトークに触れ、読書の楽しさを感じることができた。また、「本、だいすき」も子供たちの励みになってよい。 読書量や読書の質に大きな差ができた。 毎週1回図書室を利用し、図書室での約束を守ることを大切にする読書の楽しさを感じることができた。 月2回は図書室へ行き、読書に親しむ時間を確保することができた。	・本を手に取りやすくするために、図書管理員や図書ボランティアをお願いして、高学年向けの本(輪を広げ読みやすいものも入れて)をブックトラックに用意してもらった。 ・読書記録を時々チェックし、支援が必要な児童に早めに手立てを講じる。	・本は年齢によって受け取る感想が変化するので何回読んでも良い。 ・「いいの本」の取り組みを今後も継続してほしい。 ・調べ物では、インターネットが増え本離れが課題である。自分で調べたいものを探す力を付けてほしい。図書室でどのようにして調べるか学ぶ機会を設けると良い。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	自己評価(成果と課題)	改善策	学校関係者評価
健康な生活	体力の向上、健康の維持増進、日常の指導の徹底を図り、児童の活力を引き出す	体育の指導を充実させ、児童の運動能力、体力向上を図る。	体育まるわかりハンドブックを活用する	<p>体育まるわかりハンドブックを活用し、運動量を増やすことができた。体幹トレーニングを意識して取り入れたことによって様々な体の動かし方を体験した。</p> <p>活用できる部分は活用し、実態に応じて工夫した。</p> <p>まるわかりハンドブックを各クラスに配布してもらったことにより活用の頻度が増え、体育指導の充実につながったと感じた。初めて指導する学年だったが、見通しがもてて不安が軽減できた。</p> <p>新体力テストの結果は、毎年、国や都に比べて平均以下のものが多い。</p>	<p>・来年度も継続して活用していく。</p> <p>・来年度は、校内研究を体育で行い、体育の授業改善を図ると共に、体力、運動能力向上のための取り組みを考えていく。</p> <p>・休み時間の過ごし方や夏休みの水泳、持久走、縄跳びなどの取り組みも見直していく。</p> <p>・家庭とも連携を図っていく。</p>	<p>・骨折などのけがが以前より増えている。骨密度を高めるための負荷が大切である。日常的な努力が必要である。</p> <p>・体力テストの結果個票を活用するとよい。平均まで実際に取り組んでみるなど、運動の意識付けを行うとよい。</p> <p>・体育好きが多い。体育好きをチャンスと捉え、目標数値を立てて取り組むと良い。</p>
		全校で日常の指導を徹底し、児童の活力を引き出す。	返事、挨拶、授業中の挙手の仕方、発言時の声の大きさの指導を共通理解して指導する	<p>専科で授業をやっていると、名前を呼ばれたら返事をして立つということが定着しているクラスとしないクラスの差が大きくなる。専科でも返事の指導をしているが、普段クラス内で習慣がないと定着しないと思うので、教員で再確認が必要があると思う。</p> <p>呼名の際の返事は徹底している。担任の授業以外での定着はできていない。声の大きさは小さい。活力がない。随時、指導してきた。個人差はある。挨拶ができる児童が少しずつ増えている。挨拶・返事は心がけていて、できていると思う。挙手の仕方については違和感がある。呼名の際、返事をするように指導は行っているが、なかなか定着しない児童もいた。</p>	<p>・「呼ばれたら返事を。指導を全教職員が徹底していく。</p> <p>・教員自身が、指導を徹底するよう意識を高くもつ。</p> <p>・教員から児童に模範となるような挨拶をしていく。</p> <p>・返事がないうちに「お返事は？」と要求する</p> <p>・発言時の声が小さい児童には、「いっていることはよいのでもう少し大きい声で言ってみよう」と要求していく。</p> <p>・声の大きさだけでなく、言葉の明瞭さ、発言の内容なども評価し、よいところをほめ自信をつけさせていく。</p>	<p>・教師は児童に指導しているが、挨拶のない教師もいる。教師自身が児童の手本となるように努力してほしい。教師自身の意識を変える必要を感じる。</p>

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	自己評価(成果と課題)	改善策	学校関係者評価
豊かな心の育成	自他の生命を尊重し、互いに認め合える豊かな心を育成する	学級活動の時間を充実させ、望ましい人間関係を形成し、自主的、実践的、実践的態度を育てる	学級活動を継続的にを行い、児童が自主的、実践的に活動する時間を確保する	<p>学級会を継続的にを行い、児童が会の進め方が上手になった。継続的に行った結果、児童が主体的に行動できるようになった。学級会を開かなくても自分たちで話し合う姿が見られるようになった。</p> <p>学級活動を通してお互いを理解したり、相手の意見を聞いたり尊重したりすることが少しずつできてきた。</p> <p>学級会を行い、議題について、みんなで話し合おうとする意欲が高まった。</p> <p>学級会の進め方を理解し、徐々に自分の意見を言える児童が増えてきた。自己主張が強くなり、話し合えて折り合わず、険悪な雰囲気になってしまう。</p>	<p>・自己主張があるのはよい。とことん話し合う姿勢が身に付いているということではない。</p> <p>・学級会を実施するための具体的な方法をOJTで学ぶ。</p>	<p>・児童が主体になり話し合い活動することはとても良い。</p> <p>・話し合いが決裂したときにいじめにつながらないように留意してほしい。</p>
		特別支援学級との交流を通して、思いやりの気持ちを育てると共に、障害のある児童に対する理解を深める	交流の年間計画に基づき、ねらいを達成するための手立てを工夫する	<p>校外学習や行事、通常の授業でも交流を図ることができた。今後も継続して交流をしていく。</p> <p>めあて意識をもって5年生との交流学習を進めることができた。</p> <p>入学式準備から、移動教室、運動会と共に活動する中で、自然にかかわりができていると思う。</p>	<p>・事前の打ち合わせを行いながら、引き続き交流をしていく。</p> <p>・児童の実態を見ながら、交流学習の進め方の改善を図る。</p> <p>・副籍制度を無理のない程度に進めていく。</p> <p>*副籍制度：わくわく学級の児童が、わくわく学級の他に、通常学級にも籍をもつ</p>	<p>・それぞれの活動の中で自然と助け合い、一緒に活動ができている。</p> <p>・いろいろな学年、学級と一緒に学ぶ機会があり、協同学習により互いに成長できる機会である。</p>
開かれた学校	家庭、地域に信頼される、開かれた学校づくりを推進する	安全、安心な教育環境を整える	学級だよりで学級の児童の様子を伝える	<p>月便りや週便りを利用して、子供達の学習や生活の様子を伝えた。継続的に発行することができた。発行することで、児童理解を深めたり、保護者への情報発信もなったりした。</p> <p>学級だよりで児童の様子を伝えてきた。あつという間に、次の学年だよりを書く時期になる。学級だよりを出す余裕がない。</p>	<p>・努力はするが、実態としては時間が足りない。学年便り様子を出せる限り発信する。</p>	<p>・学年・学級だよりの良さがあがり、子供の様子などを直接知ることができる。</p> <p>・学級だよりはクラスの様子が見えるので続けてほしい。文章は少なくとも写真掲載を多くしてほしい。(後ろ姿・シルエットでも良い)</p>

3 評価結果の公表等

学校評価の結果については、平成31年3月1日発行の学校だより「石西通信 学校評価特別号」およびHPで保護者・地域の方へ公表する。

4 次年度の学校改善へ向けた校長の見解

学力の向上

- ・新学習指導要領に示される「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力の育成を図る教育の積極的な展開と学習評価の充実に努めるために、校内研修・校内研究を充実させるとともに、積極的な校外での研修会への参加を推進し、教職員が学んできた研修内容を校内の教員で共有する。
- ・新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の視点からこれからも授業改善を図っていく。
- ・外国語活動について、本校の特色として低学年から実施する。
- ・校内研究において「書くこと」国語についての研究で明らかになったことを生かした指導を次年度も継続していく。

健康な生活

体力向上

- ・31年度は校内研究を体育に設定し、体力・運動能力向上について研究を行う。
- ・体力向上のためには、普段の生活で体を動かすことが必要である。中休み、昼休みには外遊びを推奨し、担任も子供たちと一緒に遊びに関わりながら体を動かす経験を増やすとともに体育の授業においてサーキットトレーニングを行い、運動の仕方の基礎を学び、家庭と連携しながら体力向上を図っていく。

児童の活力を引き出す

- ・返事、挨拶、授業中の挙手の仕方、発言時の声の大きさの指導を継続的に指導する。

豊かな心の育成

- ・「特別の教科 道徳」や「学級活動」「学校行事」等において自他共に認め、相手の考えや思いを感じることができる指導を充実させる。
- ・特別支援学級児童の通常学級におけるの副籍制度を導入し、所属学級との交流活動を増やしていく。

開かれた学校について

- ・今年度、取り組みの一つとして子どもの様子を学級だよりや学校HPで保護者へ知らせてきた。安全・安心な高学年は学級だよりを出すことは時間的に難しいが、移動教室や社会科見学の活動のようすなどをリアルタイムにHPに掲載することで、児童の様子を知らせている。今後も継続して学校の様子を保護者へ知らせていく。

(様式1)

平成31年 3月 7日

練馬区教育委員会教育長 様

練馬区立石神井西小学校(園)
校(園)長 山口 義一 公印

平成30年度 学校関係者評価等報告書

1 学校関係者評価委員会

	氏名	所属等
委員長	佐藤 尚武	青少年育成関地区委員会会長
委員	石井 逸代	学校応援団長
委員	飯田 美奈子	青少年育成委員
委員	内野 文恵	青少年委員
委員	室井 多美子	青少年育成関地区委員会副会長
委員	齋藤 ちひろ	前PTA会長
委員	堀越 美緒	PTA会長
委員	橋本 智子	元PTA会長 地域連携推進コーディネータ
事務局長	山口 義一	校長
事務局	米田 恵美子	副校長
事務局	蒲生 昌史	主幹教諭
事務局	川崎 正道	主幹教諭
事務局	堂脇 美穂	教諭 校務主任

2 自己評価と学校関係者評価について

(1) 共通事項(該当項目を選択、複数回答可)

児童生徒対象アンケート(実施学年) 全学年 ____ ~ ____ 学年
自己評価結果公表方法 学校だより 学校ホームページ 保護者会資料
その他()

(2) 実績

月	自己評価	学校関係者評価委員会
4	学校経営計画	
7	第1回中間評価(7月25日)	第1回 7月12日(木) 10:30~12:00 委嘱状交付 本年度の学校経営計画
11	児童アンケート(11月19日) 保護者対象アンケート(11月19日)	授業参観 質疑応答
12	第2回中間評価(12月21日)	第2回 12月1日(土) 10:30~12:00 本年度の経営計画の中間報告
1	評価分科会(1月7日) 評価全体会(1月8日)	質疑応答 授業参観・展覧会見学
2	学校評価報告書作成(2月)	第3回 2月26日(火) 10:30~12:00 学校関係者評価
3	学校評価公表(3月1日)	質疑応答